現地ルポ

# 紅灯の消ゆるとき

**赤い灯青い灯が、白川の流れにきらめく熊本市の「二本木」をはじめ、県下各地の、いわゆる赤線、青線地帯は、売春防止法の四月一日施行を前に、去る三月十五日をもってその灯を永遠に消してしまった。これはその機に際して新しい途への転換に悩み、或いはいさぎよく立上らんとする現地のルポルタージュである。**

## 二本木組合解散式

——螢の光　窓の雪
ふみ読む月日　かさねつゝ
いつしか歳も　すぎのとを
あけてぞ今朝は　別れゆく——

去る三月十六日のひるさがり。卒業式のシーズンもあと絶えて、いま新たにきくこの合唱は、永い八十年の歴史に終止符をうつ「二本木貸席組合解散式」がもたらした、その情景の一コマである。

「螢の光」——思い出多いこのうたは今も昔も、学窓に別れを惜しむ学生や生徒の美しい涙でささえられているのだが今日、こゝに流れるそのメロデイは、むしろ、非情と汚濁から解放されて、清らかな世界へとフンギリをつけて巣立つ、従業員女性たちの歓びのうたともいえたであろうか。

——その日。

俗に色街といわれてきたこの二本木町女紅場の界わいにも、小春日和の暖かな日ざしが家々の軒下に小さな日だまりをつくつていた。物干竿にかけられたまつ白な洗濯物が風にゆらぎ、鮮かなふとんの色模様が降りそゝぐ陽光に照り映えている。そして、あたりの路上を無心に馳けずり廻る子供たちの姿には、明るく豊かな童心が、ほんとに伸び々々とみなぎつているようだ。たしかに、いつもの春とは違つた表情が、こゝそこにただよつているのである。

解散式の会場では、ちようど、集つた組合の役員と従業員三百人余を前にして矢野組合長が、〃お互が一刻も早く正業につきそして人生の再出発をしよう〃とお別れと誓いの言葉を残しているところであつた。感慨の深くこもつた会場の壁には、

〃我等熊本県二本木貸席組合の業者並に女子従業員全員は、八十年の歴史をもつ営業を、国法に従い本日茲に放棄することを宣言する〃

と大書した貼紙が掲げられてあつた。

戦後、日本が文化国家として立上ることを世界に約束し、その平和憲法の中にうたわれた基本的人権にてらして公娼が廃止されたにもかゝわらず、今日までその存在を消すことのできなかつた売春業問題も、ついに、この紅灯の一角から灯りを消すことになつたのである。

## 八十六年の歴史

では、この二本木遊廓が、日本全国に名をうつた歴史的な事実に因み、八十年前の過去に明りを灯しながら、そのくるわの動きについて、かんたんにAさんのお話をうかがつてみよう。

熊本に公娼が生れたのは、明治以後のことであり、その六、七年ごろ、京町に五、六軒程度のものがあつたにすぎない。これが西南の役の熊本鎮台での戦いで焼野原と化し、現在の二本木町に移つたのが、そもそもの始まりで、それは、明治十年のことである。

さて、その頃から二本木遊廓が、国家の庇護の下でしだいに発展の一途を辿りながら迎えたのが、明治三十三年、一世を風靡したあの〃東雲楼のストライキ〃であつたのだ。これは、楼主中島茂七氏に対し、女子従業員の全部が待遇改善を要求して行つた同盟罷業である。東雲将軍（中島茂七さんのこと）と云えば、関西の米問屋筋をおさえていたほどの相場師で、現在の朝市場にあつた米の定期問屋の相場も、その茂七さんの采配一つにかゝつていたといわれている。

〃何をくよくよ川端柳
こがるゝなんとしよ……〃

この東雲節が当世の流行歌の花形であつたことも、いまなお、一種の感慨を呼んでうたわれているところに、時運の深いきずなを思わせるのだ。

ところで、二本木の最盛期は、なんといつても大正八年から九年にかけての公娼時代で、そのころ七十二軒を数えた華やかな姿も、戦争の災禍で五十二、三軒

解散式に出席する従業婦達の感慨如何？

に減り、そのまゝずつと今日に及んでいたわけであつた。

肥後人特有のモッコスさに加えて、ぽつりぽつりと訥弁で語つてくれた老齢のAさんは、この二本木界わいの生えぬきと云われ、しかも、たいへん真面目な人であることも、語を継いで話される次のようなことでもうかがえたのである。

「……私は養子なんですよ。不本意ながら引き継いだこの商売も、当時としては仕方がなかつたわけなんで、こんどの法律ができてからは、昨年の九月には廃めてしまつています。とにかくその商売が私の性に合わなかつたことは確かなんです。公娼が廃止になつたのは、もう十二年前のことでしよ……だから、それから今日までの二本木の商売というのは、当然ヤミなんです。これに対して、すつきりとした形が与えられなかつたことに、私は、ある矛盾を感じていましたが、しかし、それも全国的なことではあるし、国の政治的な問題も少からず含まれていて、何ともいたし方なかつたのだと諦めていましたよ。私のところにも従業員が十五、六人居りましたが、商売を裏から眺めていて一番辛かつたのは、だまされて連れ出された従業婦のことでしたね…」

しみじみと、くるわの回想をうかべながら、中庭にまなざしをやるAさんの横顔も、心なしか今日の感懐にまたゝいているようだつた。

## 潔よく踏み切つた業者達

では、三月十六日を期し二本木の歴史的な舞台に幕が下ろされてゆく姿を、業者や従業婦の方々の心境の一端に捉え、さらに、今後に残された問題の克服と解決に努力されんことを切に期待しながらルポの内容を展げてみよう。

家造りがどことなく旅館むきにできているN楼のその掃き浄められた敷石を伝い、座敷でその主人を待つていると、間もなくけたたましいオートバイのとまる音がきこえ、Sさんの姿が座敷にあらわれた。

「やあ、たいへんお待たせしました。いま最後の総会がありましてネ、全戸の廃業願を正式に南署へ出すことに決めてきたところです。これでどうやら、すつきりとしましたよ。あとは十六日の解散式を待つばかりです。思えば創業以来八十六年の商売でしたからネ。解散式は盛大にやりたいと思つていますよ」

行き悩むこんどの問題の収拾に努力してきた組合役員のSさんも、こゝで一服……といいたいところであろう。

「法の実施が熊本では十六日ということに決まるまでは、私も同業者五十二名を代表する役員の一人として、県や警察の方へ、全く命がけで馳けずり廻りましたよ。次官通達などをめぐつて、県の方々と激しい論争を重ねてきたことも、現在となつては夢みたいなことかも知れませんが、ご承知のように、この大きな広い建物をいきなり転業の方向に造り変えることがいかに困難であることか、又従業婦たちの行末を親心から考えた場合など全く想像に余るトラブルが組合員の多くから持ち込まれてきたんです。しかし、私たちも、法律の趣旨を十分に納得し自覚していたんですから、先づ一刻も速く、青写真に基いた用途変更などの転業許可を認めるよう当局にお願いして、踏みきつたわけなんです。民警一致、その法に服するには、悪い病気のことも考えなければならなかつたので、従業婦たちには、私から積極的に完全治癒を強くすゝめてきました。いま、二本木には二百五名の従業婦がいますが、この中、家に帰つて働く者が八十七名、結婚の決つているのが六十名程です。女性は、何と云つても結婚によつて一生の幸福が左右されるわけなんですから、私もその従業婦たちの健全な将来を考えて、生みの親以上の気持でその縁談と取り組んでいるところです。昨日も私のところから一人晴れの首途をしましたがネ、本人が蓄えたお金にタンス、鏡台等を加えて再出発する表情には、ほんとに、こぼれるような歓びがみえましたネ」

Sさんの親心にも似た微笑から、ふと帳場の鴨居に眼をうつすと、従業婦の名札がずらりと釘に垂れて並んでいる。商品化された忌わしいそのレッテルが、あと数日を残して剝がれてゆくのを、従業婦の誰もが喜んでいることであろう。

## 仲居さんの問題も

「こゝの組合には、いま仲居さんが百名ほど居りましてネ、総会の席上でもその方々の身の振り方や今後の生活のことについて、いろいろと協議をして来たわけなんですが、何よりも年齢的な条件が伴わないために適当な口もなく、実は頭を痛めているところです。ですから一つ県の婦人相談所あたりから、この人たちの仕事のお世話を願いたい、と考えてい